

平成27年12月28日発行

ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第42号

平成26年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.42 2014*



福岡県保健環境研究所

はじめに

平成 26 年度の業務および調査研究実績を取りまとめた、福岡県保健環境研究所年報を作成しましたのでお届けいたします。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

平成 26 年度の感染症の大きな話題は、約 70 年ぶりに国内でのデングウイルスの感染事例が報告されたことです。東京を中心に合計 160 名の患者が確認されました。当所でも、検査診断体制や、野外蚊の調査体制を整え、県内で患者が発生した際の対応を準備しました。幸い県内での感染は確認されませんでしたでしたが、海外で感染し帰国後デング熱を発症する例は報告が続いています。今後とも、国内発生の可能性がありますので、警戒が必要です。

また、平成 27 年度に入ってから、県内で初めての重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者が報告されました。さらに、西アフリカでのエボラ出血熱の流行に伴い、県内でも疑い患者が報告され、当所の職員が検体を国立感染症研究所に搬送するという経験しました。韓国では、中東呼吸器症候群(MERS)の主に病院内での流行が起きています。このように、今までなかった新興感染症についての備えも必要とされ、当所ではウイルス課を中心に検査診断体制を整えています。

平成 26 年度の機器の整備としましては、液体クロマトグラフ四重極ー飛行時間型質量分析装置 (LC-Q TOF-MS) が生活化学課に整備されました。この機器は、社会問題化した危険ドラッグの検査を迅速化し、またその精度を高めることができます。この機器の活用により、危険ドラッグ対策が進み、その撲滅に寄与することが期待されています。

環境分野におきましては、県の重点施策事業として、多様な主体による生物多様性戦略推進事業及び英彦山絶滅危惧種保護対策事業が開始され、当所の環境生物課がその中心的な業務として取り組んでいます。具体的には、県民参加型生きもの調査への支援、外来種の生息状況調査、英彦山に生育する絶滅危惧植物調査等を実施しています。

また、国際協力の面につきましては、平成 26 年度から環境省の「中国大気環境改善のための都市間連携の強化・支援事業」へ県の環境部とともに参加し、江蘇省と人材育成や技術指導の面での協力を行っています。当所から大気課の職員が視察と技術指導を目的に江蘇省を訪問し、一方江蘇省から関係職員が技術研修を受けるため本県を訪れており、研修の一部は当所で実施しております。大気汚染等の環境問題には国境が無く、周辺国の協力が何よりも必要と考えられます。当所としましても、将来的に国際協力に貢献できるよう努力したいと思っています。

平成 27 年 12 月

福岡県保健環境研究所長 香月 進

